

浅野と梅津(星槎帯広)出場

「学校を背負って臨む」

陸上競技の全国高等学校定時制通信制体育大会(13日・東京)に、星槎国際帯広キャンパスから2選手が出場する。男子1500㍎に生徒会長の浅野竜大(3年)、男子200㍎と同400㍎に梅津雄一(同)が挑む。同キャンパスからの全国定体連出場は2年連続2回目。2人への周囲の期待は大きく「学校を背負っている」という意識を持つ

てレースに臨みたい(浅野)と意気込む。

定体連の全国大会は、道内の定時制、通信制高校から出場希望を募り、申告者の各競技上位3人が選ばれる。今回は道内から男女7選手が出場する。

同キャンパスでは体育に特化したフィジカルコースの生徒が、授業の中で練習を積み重ねてきた。浅野は授業以外にも毎日約8キロを

自主的に走り込み、定体連に出場する全国の星槎国際生徒と東京で7月22日から2泊3日の合宿を行うな

ど、本番に向け厳しい練習を続けてきた。エントリ記録は5分2秒0だが「4分40秒はいけるだろう」と自信を見せる。会場には浅野が1年生時に担任だった千葉翔太教諭も広島から駆けつける。

梅津は中学時からの陸上経験者で、浅野は「表情には出さないけど負けず嫌い」と語る。

「全力を出し切って、これからの自分につながるレースをしてもらえたら」と期待する。(村田壮一朗)



全国大会に出場する浅野竜大(左)と下口直矢監督